

設立趣旨書

1. 趣旨

年々増大する膨大な医療費等により、今、日本は財政に困難な問題を抱えています。暮らしや働き方、家族のあり方が大きく変化し、長くなった老後を心穏やかに過ごすことさえ難しくなり、先が見通せず、長生きすることがリスクになっています。どうすれば毎年増加の一途をたどる医療費、未病と病気の増加に適切に対処できるのでしょうか？

人は加齢とともに体内の細胞数の減少と抗酸化機能が低下し、過剰な活性酸素に対する抵抗力が失われていくといわれます。さらには、現代ではさまざまな酸化ストレスが加わることで、病気の原因となる活性酸素を刻々と大量に発生させ細胞を傷つけ、より老化が進んでいます。

その最たるものが人類の長い歴史において僅か近年 50 年間に登場した食品、環境の問題です。食品添加物や保存料、残留農薬、化学肥料を多用したミネラルの乏しい野菜や果物そして抗生物質などが配合された飼料による畜産や水産物の摂取です。これらが蓄積して、多くの健康障害を引き起こすといわれます。何らかの有効な予防策か医学的根拠のある合理的な健康ケアを施さない限り、多くの生活習慣病から逃れることはできません。病気になってからでは遅すぎるのです。

本来のエネルギーのある農産物、海産物、日本古来の発酵食品の力を使い、さらにそれを補って余りある「水素」の力を活用し、健康の維持・増進に努め、生き生きとした社会作りに参加することが、結果として日本再生につながる道であると確信しています。

2013 年秋の調査によると“水素が健康に良い”と一般人の 50%が認識しているにも拘らず水素の内容についてはまだまだわかっていない状態であるとされています。一般の方にも水素及び関連する情報を業界・メーカーに偏らず普遍的に伝えることができるよう関係各機関と連携して活動し、健康と食育に関する情報リテラシーを高め、地域社会や行政へ働きかけます。さらに継続可能にしていくために財源確保も含め支援者を募り、さらには県内外の団体とのネットワークも広げていきます。

2. 申請に至るまでの経緯

2011 年 2 月におかやま水素研究会として発足して以来、上記趣旨のもと、毎月の勉強会の開催、自然農塾への参加、2012 年 3 月 2013 年 3 月の健康博への参加、2012 年 7 月の水素研究第一人者である三羽信比古教授の講演会、京都クリニックの見学を開催し、日本水素医療美容科学会などのグループと運営サポートに成功しました。

また、水素の情報収集・調査・研究・開発を行い、特に水素吸入に関しては従来品の 1/10 のコストで安価に効果の上がるシステムの開発に成功しました。

食育の観点からも無農薬・植物性有機肥料にこだわり、自然農・自然栽培を目指し、岡山市北区栢谷農園、岡山市東区上道のまほろばの里農園を開墾・維持・管理し、農産物の生産・配布、あるいは梅の加工、大豆の栽培と味噌作りなどを行って、幅広い活動を続けています。

特定非営利活動促進法に基づく法人格を取得することにより現在の活動基盤を充実させ、一般の方にも食育の啓蒙を行い、さらに水素及び関連する情報を業界・メーカーに偏らず普遍的に伝えることができるよう関係各機関と連携して活動して行くことを目指し、2013 年 3 月から、法人化問題に関する本格的な検討に着手、その後、2013 年 12 月には、NPO 法人化の申請に向け、定款や事業計画等の準備を開始することを決定し、設立準備委員会を発足するとともに、特定非営利活動法人おかやま水素研究会の設立を決議、農地などの契約あるいは財源確保の面からも早く法人として稼働して欲しいとの切実な要望を受け、今次の申請に至ったものです。

平成 26 年 1 月 9 日

特定非営利活動法人 おかやま水素研究会

設立代表者住所

岡山市

氏名 神原 節 士